

情熱と使命感をもって、今、変革の時

高齢化社会と言われ始めた1970年以降、高齢者人口は年々増加し、現在も日本の高齢化率は更に上昇し続けています。滋賀県においても、人口減少や年少人口及び生産年齢人口は減少が続いており、他地域への転出率も高くなっています。これに伴って、地域経済の悪化から、地方の活力が失われていくことが想定されます。

しかし、野洲市においては、豊富な自然環境や歴史、今後は交通網の発展、野洲駅前の開発、滋賀県唯一の高等専門学校の設定などの計画があり、流入人口の増加から活性化を期待できるまちであります。このまちに住む人々が集い、互いの存在を尊重し合い、産官学民一体となったイノベーションを生み出してこそ、地域経済悪化の現状を打破でき、まちの発展につながっていくと考えます。

野洲青年会議所は、「明るい豊かな社会」の実現に向けて、これまでの運動に尽力して参りました。時代の変化が目まぐるしく加速する現代社会だからこそ、野洲青年会議所創立40周年、そして、野洲市制施行20周年という節目に、今一度自らの足元を見つめ直し、これからの未来が今以上に希望を持てるまちづくりを戦略的に実践していくためにVISION40を掲げ、まちづくりに対する情熱と使命感をもって行動していきます。先人たちの軌跡や私たちの想いを含めた未来を照らす新たな道標が、「個性を輝かせ、魅力がひろがる 誇れる故郷 野洲の実現」へとつながると確信しております。

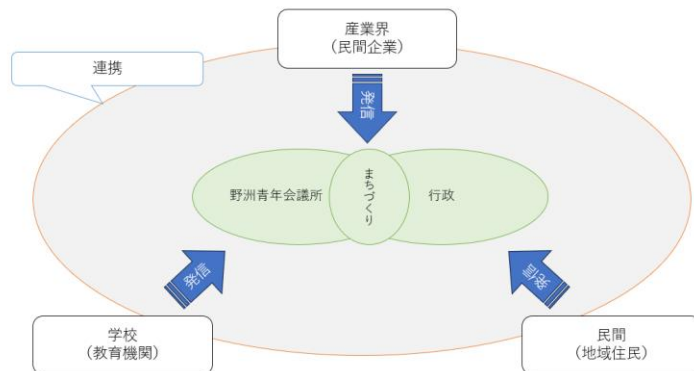
個性を輝かせ、魅力がひろがる 誇れる故郷 野洲の実現のために

人口減少は日本全国で進行しているため、日本全体での経済力の縮小、国力の減退は間違いないでしょう。このままでは、野洲市も同様に魅力が埋もれてしまいます。しかし、野洲市には、この先に流入人口が増える要素が多くあります。今こそ、一人ひとりが住みよいまちづくりのためにコンフォートゾーンから抜け出し、まちによりよい影響を与えられる挑戦を続け、変化を好機として、野洲市をまち全体で積極的に発信していく必要があります。

そのためには、我々が先頭に立ち、従来の価値観に縛られない新しい価値観を創造し、まちが一体となる協働の関係を牽引していかなければなりません。地域経済活動に直接結びつく企業、高い専門性を持って地域に根ざした活動をされている市民団体、未来を切り拓く新しい人財を養成する教育機関、そして行政と、それぞれの特性を活かし、まちづくりに協力して取り組んでいくなかで、刺激が生まれ、視野が広がり、思いがけない発想や結果は生まれます。お互いに理解し合い、特性を最大限発揮できるような場やネットワークを築くことが重要となります。健やかなまちづくりを主軸に、それぞれの立場の使命・役割の違いを理解し尊重しつつ、双方の活性化に資するような相互補完的な連携ができるパートナーシップを構築していきます。

また、まちにイノベーションを起こすために、野洲青年会議所がイノベーターとなり得る人物のアイデアを受け止め、バックアップできる環境を整えていきます。「全員一致を良し」とせず、ありきたりな意見だけでなく、個性的な意見も尊重し、「理由なき同調」を排除していきます。個性的な考えや斬新な発想を発言しやすい環境は、よりよい変化が生まれる可能性が飛躍的に高まります。そうすることで、変化が生まれやすい風土が醸成され、挑戦をしていくことを尊重する考え方が地域に根つき、野洲市外からも多様な文化・背景を持

つ人財が集まってきます。そのような背景の異なる人財が集まることにより、自然と多角的な視点や考える力が養われます。その多様性から暮らしやすい環境が整い、他地域からの参入も受け入れられやすく、さらに新しい視点のイノベーションが生まれやすくなっていきます。



地域のつながりで、イノベーションを起こす

地域から、活躍できる人財を育てられるまちを目指す

- 1、健やかなまちづくり
- 2、多様性を輝かせるまちづくり
- 3、新しい価値を共創できるまちづくり

これらを実現することで、魅力溢れる人財が集まり、さらに野洲市から魅力溢れる人財が輩出できるようになり、市民が夢を描き、誰もが夢を実現できるまちとして、多くの人が魅力を感じるまちになります。私たちは明るい豊かな未来を思い描き、それぞれの信念を貫くためのチャレンジを繰り返し、「住んでみたいまち」「住んでよかったまち」、この好循環を生み出すことで、「個性を輝かせ、魅力がひろがる 誇れる故郷 野洲の実現」へと邁進して参ります。

